

宮沢賢治ブックトーク

皆さんは今、「イーハトーヴの夢」を習っていますね？

宮沢賢治の生き方や想いがよくわかると思います。

『やまなし』という話、好きな人？

よくわかったという人？難しかった人？

実は私もよくわかりませんでした。

初めて読んだ時「なんだそれ？」って思っていました。

でも、宮沢賢治の伝記を読んで、賢治がどんなことが好きで、どんなことを強く望んでいたかがわかると、「あ～そうゆうことか」と思えるようになりました。

そして、その後で私をすっきりさせたのが、この絵本でした。

2枚の幻燈が描かれています。5月と12月ですね。

みんなが思い描いた幻燈と比べてどうですか？

では、今日は教科書に載っていること、載っていないこと・・・賢治の人生に合わせて、本を紹介したいと思います。

まず、小学生の時、賢治は「石こ賢さん」と呼ばれるほど石が大好きでしたね。

石を集め観察することが好きで部屋には机の引き出しも石でいっぱいだったそうです。

中学生になると、山にもよく登りました。高等農林学校に行くと、地質学研究科に入って、もっともっと石の勉強をしました。

そんな賢治だったので、『気のいい火山弾』というお話ができました。

一度も怒ったことのない気のいい石でしたので、まわりの角のある石にからかわれていました。でも、気にもせず過ごしていましたが、頭に生えた苔にまでバカにされ始めました。でも実は、その石はとても珍しい石で、学者たちにとっては、すてきな石だったのです。

子どもの頃の自分たちの遊びを盛り込んだ『風の又三郎』。引っ越してきた男の子が実は風を操っているみたい・・・？楽しいオノマトペ（擬音語）が有名ですね。

風が「ピューピュー」ではなくて、「どっどど どどうど」と吹きます。とても力強いですね。

一緒に読んでみましょう。

では、『月夜のでんしんぼしら』では、どんなオノマトペが使われているのでしょうか？

なんと夜、汽車が来ない間に線路沿いの電信柱が軍隊のように行進します。

さて、考えてみてください。発表

「ドッテテドッテテ、ドッテテド」

『雪わたり』にはキックキックトントン。とこちらも楽しいオノマトペを使っています。きつねの幻燈会に招待された四郎とかん子。雪道をきつねに騙されはしないかとどきどきしながら遊びに行きます。楽しい会になったでしょうか？

岩手の長い厳しい冬が伝わってくる『水仙月の四日』には優しい雪の子どもが出てきます。

自然も動物も心を持っている。人間と繋がっていると感じられる本です。

そんな賢治だったので、動物を殺して食べることを嫌い、大人になってからは、ほとんど肉や魚を食べませんでした。『注文の多い料理店』や『なめとこ山の熊』は生き物を大切に思う賢治の性格が表れています。

『注文の多い料理店』の紙芝居を読みます。

生きるためではなく、趣味で動物を殺す人には天罰が落ちるぞ！と言いたそうですね。

みんなは、どんな人がきらいですか？

発表

賢治は意地悪な人や偉そうな人が嫌いでした。

中学の時に学校の寄宿舎に入っていましたが、意地悪な先生だったので、賢治はみんなと一緒にひどい騒ぎをおこしました。このとき、寄宿舎を追い出されてしまったんですよ。

『どんぐりと山猫』ではドングリ達が「一番偉いのは自分だ！」と争っています。ドングリっていろいろな種類がありますよね？裁判官の山猫は困っていましたが、ゲストに来てもらった子でも一言で決めてもらいました。さあ、なんと言ったのでしょうか？

『ツエねずみ』では、なんでも人のせいにするネズミが主人公です。みんながいいことを言ってくれても、それで失敗すると「まどてください。まどてください。」と怒ります。

『オツベルと象』のオツベルは象をいように言って働かせて、重しをつけたり、餌を少しずつ減らして弱らせます。

このような人たちは最後はどうなっていくのでしょうか？

農学校の先生をしていた時にたくさんの作品を書いたと言われていますが、26歳の時には大好きだった妹が亡くなってしまいます。妹が亡くなった時の事、妹への想いを『永訣の朝』という詩に書いています。教科書に一部載っていましたが、全文を読みたいと思う人は『日本語を味わう名詩入門 宮沢賢治』を見てください。詩集『春と修羅』の内容も載っています。

そして、『銀河鉄道の夜』もこのころ書かれたと言われてしています。小学生のころ、友達が川で行方不明になったことや、高等農林学校に行っていた頃に鉄道が全通したこと、妹への思いが盛り込まれています。

賢治は農業を教える先生をしていましたが、「本当に農業をしてみないと、農民の気持ちはわからない」と先生をやめて、農業をし始めます。そして、農業をしながらも音楽や芸術を楽しむことを進め、楽器を集めて、みんなで演奏をしたりしました。そんな様子から『ゼロ弾きのゴーシュ』が生まれました。

「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と考える賢治の思いがよく出ているのが、『グスコープドリの伝記』です。

賢治が死ぬ直前には『雨ニモマケズ』という詩を書いています。

読む

賢治の理想がとても伝わってくる詩ですね。

今日、紹介した本を読んで、もっと賢治に触れてみてください。

ブックリスト

やまなし	福武書店
気のいい火山弾	ミキハウス
風の又三郎	くもん出版
月夜のでんしんばしら	偕成社
雪わたり	金の星社
すいせん月の四日	岩崎書店
注文の多い料理店	偕成社
なめとこ山の熊	偕成社
どんぐりと山猫	講談社
ツエねずみ	講談社
オツベルと象	講談社
日本語を味わう名詩入門 宮沢賢治	あすなろ書房
銀河鉄道の夜	講談社
セロ弾きのゴーシュ	岩崎書店
グスコブドリの伝記	金の星社
雨ニモマケズ	パロル舎